

12月定例会

第4回定例会が12月12日～13日に開催され、町長の行政報告や7人の議員による一般質問のほか、報告4件、議案20件、同意1件、平成28年度各会計決算の認定6件、意見書案1件が付議され、全会一致で可決しました。

また、閉会中の両常任委員会の事務調査等が報告されました。

同意第1号 厚真町固定資産評価審査 委員会委員の選任

次の者を厚真町固定資産評価審査委員会委員に選任することに同意した。

【再任】 野澤政博氏

議案第2号 加賀谷厚三・明美教育振 興基金条例の制定

厚真町に住所を有している子弟に対する学資金の一助とするため、故・加賀谷明美氏の遺志により、加賀谷厚三氏の寄付金1000万円をもとに「厚真町加賀谷厚三・明美教育振興基金」を設置する。

議案第4号第8号 指定管理者の指定

5施設における指定管理者を、次のとおり指定

した。

①厚真町高齢者生活福祉センター

○指定管理者
社会福祉法人厚真町社会福祉協議会

○指定期間

平成30年4月1日～平成35年3月31日

②厚南デイサービスセンター

○指定管理者
社会福祉法人北海道厚真福祉会

○指定期間

平成30年4月1日～平成35年3月31日

③厚真町高齢者グループホーム

○指定管理者
社会福祉法人厚真町社会福祉協議会

○指定期間



平成30年4月1日～平成35年3月31日

④厚真町複合型地域福祉活動拠点施設

○指定管理者
特定非営利活動法人ゆうあいネットあつま

○指定期間

平成30年4月1日～平成33年3月31日

⑤厚真町交流促進センター

○指定管理者
株式会社あつまスタンプ会

○指定期間

平成30年4月1日～平成35年3月31日

平成29年度一般会計等補正予算

※補正予算は千円以下切り捨てで記載しています。

ふるさと寄附金推進事業

補正額 5000万円

事業予算額 1億3022万円

総務課財政G

ふるさと寄附金にかかる謝礼、通信運搬費、ポータルサイト使用料。

財源内訳

特定財源（頑張る「ふるさと厚真」応援寄附金） 5000万円

一般管理事業（災害対策費）

補正額 110万円

事業予算額 209万円

総務課研修防災G

自主防災組織へ、防災備品等の整備にかかる費用を助成する。

財源内訳

特定財源（コミュニティ助成事業助成金） 110万円

厚真町高齢者等の冬の生活支援事業

補正額 110万円
事業予算額 110万円

町民福祉課福祉G

在宅の低所得高齢者等に、冬期間の生活に係る経費の一部を支援することにより、これらの人たちが安定した生活を送ることができる経済的環境を整える。

○支給金額 1万4000円

財源内訳

道補助金(地域づくり総合交付金) 50万円
町の財源 60万円

エゾシカ被害防止対策事業

補正額 300万円
事業予算額 552万円

産業経済課農林業G

高丘地区エゾシカ侵入防止柵の設置。

財源内訳

国道支出金 300万円

スポーツセンター・スタードーム管理事業

補正額 167万円
事業予算額 2605万円

生涯学習課社会教育G

照明灯購入およびスタードーム昇降機の修繕。

財源内訳

特定財源(公共施設維持補修基金繰入金)
167万円

交流促進センター整備事業

補正額 1428万円
事業予算額 1428万円

産業経済課経済G

次期指定管理者の決定に合わせ、経年劣化により不具合が生じている交流促進センターの機械設備等の改修工事を速やかに実施し、円滑かつ安全に営業を再開するため。

○改修工事等の内容

配管洗浄・濾材交換、露天系統ボイラー改修、真空ヒーター部品交換、受水槽配管等改修、温水洗浄便座交換、水位管改修、地下オイルタンク清掃、虹暖房系統改修、サウナ室改修、男子浴室鋼製ドア改修等。

○工事等完了年月日 平成30年4月25日

財源内訳

特定財源(公共施設維持補修基金繰入金)
1017万円
町の財源 411万円

浄化槽整備事業(公共下水道事業特別会計)

補正額 974万円
事業予算額 3286万円

建設課上下水道G

浄化槽整備工事(浄化槽5基の増設)。

財源内訳

国庫支出金 324万円
地方債 590万円
町の財源 60万円

道に物申す 1件の意見書案を採択

第4回厚真町議会定例会において「厚真川河川改修事業の促進について」の意見書を可決・採択し、北海道知事に提出しました。

【意見書抜粋】

厚真川河川改修事業においては、こぶし橋までの未改修区間の早期完成を図ること。

提出者

厚真町議会議員
大捕孝吉

賛成者

厚真町議会議員

高田芳和

伊藤富志夫

吉岡茂樹

三國和江

提出先

北海道知事

第5回臨時会

10月27日に第5回臨時会が開催され、専決処分（衆議院議員選挙経費補正）のほか、厚真放課後児童クラブの整備にかかるとの事業費について審議しました。

今後、さらなる児童数の増加に対応し、安全・安心な環境を構築するため、新たに施設を整備し、平成31年度の開設を目指す。

事業予算額

1477万円

財源内訳

地方債 1470万円

町の財源 7万円

■厚真放課後児童クラブ整備事業

厚真放課後児童クラブは、拠点である厚真児童会館が築50年を経過し老朽化していることに加え、利用児童の増加により狭あいとなっている。

○整備の基本方針

①新たな施設は厚真中央小学校敷地内に整備する。

②厚真放課後児童クラブの支援単位を、現状の2から1追加し3クラブとする

③体育館等学校施設の一部を共用することにより、児童の遊びの環境改善を図りつつ、整備コストを最小限に抑制する。

④小学校に隣接させることで放課後子ども教室との一体的運営を可能にする

⑤とともに、下校を含めた児童の安全性や学校との連携体制を向上させる。

●建物構想規模（体育館を除く）

◇厚真児童クラブ（定員150人）

専用区画（活動・学習室等）

270㎡（1.8㎡/人）

共用スペース（玄関・トイレ・廊下・物品庫等） 234㎡（1.56㎡/人）

面積計 504㎡（3.36㎡/人）

●現状

◇厚真児童クラブ（定員125人）

専用区画（活動・学習室等）

157㎡（1.26㎡/人）

共用スペース（玄関・トイレ・廊下・物品庫等） 207㎡（1.66㎡/人）

面積計 364㎡（2.91㎡/人）

◇上厚真児童クラブ（定員80人）

専用区画（活動・学習室等）

129㎡（1.61㎡/人）

共用スペース（玄関・トイレ・廊下・物品庫等） 158㎡（1.98㎡/人）

面積計 287㎡（3.59㎡/人）

全員協議会

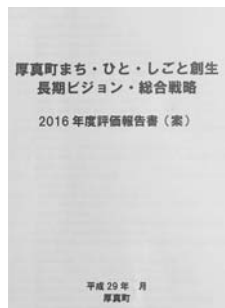
全員協議会が12月13日に開催され、「厚真町まち・ひと・しごと創生長期ビジョン・総合戦略」の中間評価および厚真町庁舎及び周辺施設整備基本構想について、次のとおり説明を受けました。

■「厚真町まち・ひと・しごと創生長期ビジョン・総合戦略」の中間評価について

平成27年10月に「厚真町まち・ひと・しごと創生長期ビジョン・総合戦略」を策定し、現在、本町における地方創生に向けた取り組みを重点的に推進している。

町では、総合戦略に掲げた目標を達成するため、基本目標ごとに数値目標を、具体的施策ごとにKPI（重要業績評価指数）を設けて進行管理を行っており、平成28年度の取組内容やKPIの達成状況を基に、施策の進行状況に係る評価を行うことにより、施策の改善につなげるとともに、評価結

果を町民と共有することを目指し、目的として作成した評価報告書（案）について説明を受けた。



■厚真町庁舎及び周辺施設整備基本構想について

町では、現在まで避難所機能を有する施設の耐震改修を行ってきたが、災害時に拠点となる庁舎については、老朽化や耐震性の不足、さらにはバリアフリーの実現が困難であることや災害時の防災拠点機能の不全など多

くの課題を抱えている。このような状況を受け、役場庁舎は建て替えを含む周辺整備も含めた検討を行い、庁舎建設の基本的な考え方などについて整理をし、「厚真町庁舎及び周辺施設整備基本構想」を策定した。

現庁舎の施設概要、周辺施設と庁舎との関連性、総合福祉センターの状況、青少年センターの状況等について説明があり、庁舎および周辺施設の整備については、町民の利便性や事業の経済性および実現性、さらには既存の施設を最大限に生かし、総合的に考えていく必要性がある。



平成 28 年度各会計決算を認定

平成28年度各会計歳入歳出決算は、11月15日～17日の3日間、町議会に設置された決算審査特別委員会（井上次男委員長）で慎重に審議し、12月12日～13日開催の第4回定例会において全会一致で認定しました。

■各会計の歳入・歳出決算額

会計名		決算額	
一般会計		歳入	68億9691万円
		歳出	66億5737万円
特別会計	国民健康保険事業	歳入	6億9680万円
		歳出	6億7942万円
	後期高齢者医療事業	歳入	8074万円
		歳出	7076万円
	介護保険事業（保険事業勘定）	歳入	4億8258万円
		歳出	4億6235万円
	介護保険事業（介護サービス事業勘定）	歳入	3046万円
		歳出	3046万円
	簡易水道事業	歳入	23億3749万円
		歳出	23億1425万円
	公共下水道事業	歳入	2億1722万円
		歳出	2億698万円
特別会計小計	歳入	38億4526万円	
	歳出	37億6424万円	
一般会計・特別会計合計		歳入	107億4223万円
		歳出	104億2161万円

■町の貯金と借金（平成28年度末）

平成29年3月31日の人口 4659人

貯金の残高（基金等）		借金の残高（地方債）	
52億6516万円		148億83万円	
財政調整基金	13億2109万円	普通債	58億8637万円
減債基金	4億5975万円	災害復旧債	2897万円
その他の特定目的基金	30億3519万円	その他の町債	28億3740万円
土地開発基金（貸付金を除く）	6353万円		
特別会計の基金	3億512万円	特別会計の町債	60億4809万円
備荒資金	8046万円		
町民1人あたり 113万円		町民1人あたり 317万円	

※各会計・基金等は千円未満切り捨てで表記しているため、合計額（実際の決算額・千円未満切り捨て）と差が生じています。

決算審査特別委員会の主な質疑

財政グループ

○町税について

問 時効分の不納欠損4件の方は、厚真町に在住の方か。

答 既に亡くなられた方です。

問 町民税の法人分が全額収納になったが、その経緯は。

答 納税誓約を取りながら折衝を続けてきた結果、全額納税いただいた。

総務人事グループ

○土地貸付収入について

問 土地貸付収入の今後の見込みは。

答 税務グループと今後の対応を講じていきたい。

○アスベストについて

問 アスベストは何十年前から問題になっていたが、今後の対応は。

答 6施設あることを以

前から把握している。法律上、次期大規模改修時に対処することが認められているので、大規模改修に合わせ除去する。

農林業グループ

○予算流用について

問 1千万円もの大きな額は流用でなく、臨時議会での承認が適切と思うが。

答 ご指摘のとおりですが、補助事業のスケジュールの制約があり、このような形で執行するしかなかったため、ご理解願いたい。



企画調整グループ

○自治体連合負担金について

問 人口減少に立ち向かう自治体連合負担金の効果をどう検証されているか。

答 総合戦略をつくる際に、いろいろな情報を提供していただける。

総合戦略グループ

○お試しサテライトオフィスについて

問 お試しサテライトオフィスの利用日数と企業訪問の結果は。

答 利用件数は4件で、合計日数が28日。企業訪問は12社に訪問したが、お試しサテライトオフィ



スにつながる企業はない。

建築住宅グループ

○子育て支援住宅について

問 子育て支援住宅の移住者の実績と、どう事業評価されているか。

答 子どもの数が31人増え人口増に効果があった。今後、国の補助事業、土地の利用計画等の整合性とりながら整備を図っていききたい。



学校給食センター

○賄い材料について

問 賄い材料費の高騰で、安いところに切り替えたことで品質の低下の懸念がないか。

答 納品時に管理栄養士等が検査をしつかりして

いるので、その心配はない。

付帯意見

- (1) 公平な負担と財源確保の観点から、各課の連携を図り、徴収体制の一層の強化に努められたい。また、収入未済については、発生初期の段階から取り組みを強化するとともに、その減少が図られるよう努められたい。
- (2) 予算執行時に目間及び節間流用等が各会計において多数見受けられる。多額に及ぶ流用は、執行目的の変更も考えられることから、補正予算として扱われたい。
- (3) 事業成果に対する分析が不十分な事業が見受けられる。事業評価を適切に実施し、効果的な行政運営に努められたい。
- (4) その他審査中の指摘事項については、十分検討の上、新年度予算に反映させるなど最大の行政効果が発揮されるよう努められたい。

町の財政を診断（平成28年度決算に基づく）

平成29年第3回定例会において、監査委員から健全化判断比率および資金不足比率の監査結果について提出・報告がありました。

（※審査に付された算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成と認める。）

○健全化判断比率審査

比率名	平成28年度算定健全化判断比率	基準（参考）		注)1 実質赤字比率は、黒字であることから算定されない。 2 連結実質赤字比率は、資金剰余(黒字)であることから算定されない。 3 将来負担比率は、将来負担額よりも充当可能財源等が上回っていることから算定されない。
		早期健全化基準	財政再生基準	
実質赤字比率	-%	15%	20%	
連結実質赤字比率	-%	20%	30%	
実質公債費比率	11.8%	25%	35%	
将来負担比率	-%	350%		

【個別意見】（実質公債費比率について）

平成28年度の実質公債費比率は11.8%（前年度比-1.2%）となっており、早期健全化基準の25%を下回っているが、今後ともより一層の財政の健全化に努められたい。

○資金不足比率審査

会計の名称	平成28年度算定資金不足比率	経営健全化基準（参考）	注) 各会計の資金不足比率は、資金剰余（黒字）であることから算定されない。
簡易水道事業特別会計	-%	20%	
公共下水道事業特別会計	-%	20%	

総務文教常任委員会

委員会は10月18日に事務調査を行い、その結果を第4回定例会に報告しました。
(事務調査2件)

委員会 レポート

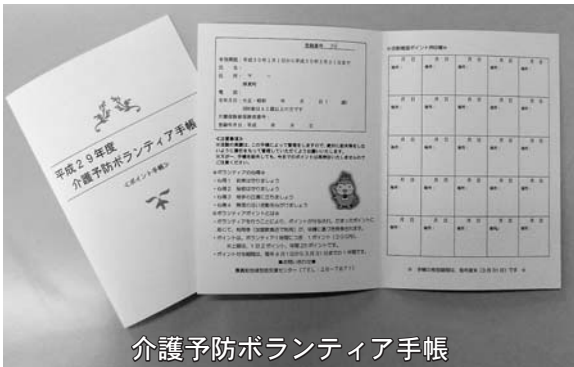
ボランティアポイントの概要について

【主な質疑】

問 介護予防ボランティアの内容は。

答 ボランティアポイント付与の対象となる事業は要綱案で規定しており、介護保険施設や老人福祉法に基づく福祉施設（豊厚園）や通所介護事業所（厚真・厚南デイサービス）、小規模多機能型居宅介護事業所等でのボランティア活動である。

問 あつまるカードに付与してはどうか。
答 介護予防ボランティアポイントの利用は「交流の場」を目的として飲食店に限定しているの、あつまるカードと一緒にできない。
問 ポイントを利用できるお店について、店側に選択権はあるのか。



答 お店も当然手間がかかるので、事業の目的に賛同していただける飲食店と考えている。

問 ボランティア養成講座の受講内容は。

答 講座は社会福祉協議会が中心となって開催する。内容としては、介護保険制度や介護の概要、高齢者の特徴と対応の仕方、介護技術、ボランティア活動の意義、緊急対応の方法等を考えている。

厚真町中学生海外派遣研修事業（仮称）の概要について

【主な質疑】

問 町内で外国人と接する機会は多くないが、どのように考えているか。

答 ALTは2人体制で小学校と中学校に入っている。小学校では、コミュニケーション科の中で厚真町PRとしてALTと外国語で話す状況を作っている。また、中学校では、イングリッシュキャンプなどで町内や近隣のALTと対話し、コミュニケーション能力の育成を図っている。

ALTが2人おり、英語の授業には必ずALTが入っているの、他町と比べると子どもたちが外国人に接する機会は多いのではないかと感じている。

問 教育全体というテーマで考えた時、英語教育や英語力を上げていくということであれば、海外派遣研修以外にも何らかのアクションを起こすべきでは。

答 教育委員会のみの企画としては英会話教室等を行って行っているが、普段の生活の中で外国人の方と接する機会は、観光客や仕事で居住している外国の方などを結びつけるなどで機会を作っていくことになると思う。

町が英語教育を進めている思いを地域に広げ、意識を高めるという意味では、今後、まちづくり推進課や観光担当等と連携を始めていかなければならないと感じている。

問 町内在住でオーストラリアに滞在した経験のある方達の話を聞く機会を設けては。

答 事前研修でお話を聞くことは非常に有意義だと思っているので参考にしたい。

問 経済的事情に配慮した費用の負担制度を想定しては。
答 経済的に大変な家庭



には、要保護・準要保護の要綱に基づいた扶助費の活用を検討等や、分割払いについても検討したい。

問 ホームステイ先の選定方法は。

答 ホームステイは2人1組で行う。保護者の要望もあるので、旅行会社と調整し考えていきたい。

問 外国の方は動物を飼っている人が多く、ホームステイ先で動物アレルギーが出るおそれがある。食べ物のアレルギーだけでなく、それらも調べてはどうか。

答 応募の中に健康面での質問紙もあるが、内容をふまえて検討します。

委員会 レポート

産業建設常任委員会

委員会は10月26日に事務調査並びに現地調査を行い、その結果を第4回定例会に報告しました。
(事務調査2件、現地調査1件)



旧畑島家住宅

古民家の管理状況および今後の計画について

旧畑島家住宅は、平成25年6月に畑島氏より寄付の申し込みがあり、平成27年3月、フォーラムビレッジ内で移築再生工事が完了し、同年7月、利活用の一環として天然酵母パン店の営業が開始された。

旧山口家住宅は、平成27年12月に山口氏より寄付の申し込みがあり、平成29年3月に解体工事を完了し、同年9月、公募

により利用者の決定をした。

平成30年12月に旧畑島家住宅横に移築再生工事を完了させ、平成31年4月にレストランと宿泊を組み合わせた形の営業開始を予定している。

旧幅田家住宅は、平成28年12月に幅田氏ほか6名から寄付の申し込みがあった。

平成31年に解体し、平成32年に移築再生工事を完了させ、平成33年から利用を予定している。

【主な質疑】

問 旧畑島邸周辺の雑草が伸び放題になっていないか。町の賃貸物件として、その状況を良くしているのか。

答 町も、ただ状況を傍観しているわけではなく、周辺の環境整備の指導をしているが、借主さんとしては古



旧幅田家住宅

民家としての景観の一部と判断されている。

問 イベントのポスター掲示をお願いしても協力を得られないと聞いている。また、テレビ局の取材も断っているようだが、古民家のPRをするためにも行政として指導が必要では。

答 ポスター掲示の協力については再度お伝えする。店としてのテレビ取材はずっと断ってきた経緯があるが、古民家自体の取材には協力するよう伝えているので、理解していただいていると思う。

問 厚真町の文化遺産として3棟を同じ場所で公

開するほうがいいと思うが。今後十分検討していきたい。

IC型ポイントカードシステムの導入について

10月2日から、従来の「MAMASUNカード」から「あつまるカード」に変更して、すでに運用開始されている。今日(10月26日)現在の発行枚数は2351枚になっている。

メリットとして、1枚のカードに買物のポイントと子育て支援ポイントを入れることが出来る。また、100ポイントごとに利用できる。

【主な質疑】

問 MAMASUNカードの時に高齢者用のカードがあったが、その機能

はないのか。答 その機能はない。

問 業者によってポイント付与のばらつきがあるが、問題ないのか。答 スタッフ会加盟店の任意で設定できる決まりになっており、行政指導として、こうしろとか、するなという話はできないと思っ

ている。



あつまるカード



森田正樹 議員

文化財保存

記念イベントと石碑移転の考えは

答 3事業を開催予定。移転は慎重に協議を進めたい

問 北海道と命名され今年で150年。その名付け親とも言われる松浦武四郎の記念碑が高丘方面交差点に建っている。そこで、松浦武四郎の講座やイベントを考えているか。

また、北海道を挙げて松浦武四郎の功績を称える中、交通安全対策上や河川地盤の状況から、この機会に石碑を移転してはどうか。

教育長 松浦武四郎をテーマに記念講演会やパネル展並びに厚真での足跡をたどるバスツアー、ウオーキングの事業を7月に開催予定である。また、北海道知事を代表とする「北海道みらい事業」に本町も登録する形で申請して共同して推進する。

石碑は昭和32年に郷土研究会が中心となつて松浦武四郎の功績を後世に残したいと多くの方々で場所を選定し、建立された。そういった方々の当時の意向などを再度確認

し、慎重に協議を進めたい。

文化財活用

博物館が必要では

答 埋蔵文化財センターを検討している

問 厚幌ダム発掘事業が終わり、何十年もかけて発掘した中で貴重なものが出ています。それを今後どう活用して町民に見せていくかが一番大事である。

北海道や日本にもない宝が出てくることから、多くの町民に見てもらえる博物館が必要ではないか。

教育長 発掘調査は平成14年から北海道の委託を受けて実施し、この間、シヨロマ遺跡など22遺跡、面積19万8000㎡の調査を行い、出土品は13

0万3000点にのぼる。特に、アイヌ文化期の

ぜい弱な金属製品、漆器や副葬品といった、厚真に先住されていた歴史や営みを物語る貴重なものが多い。発見されている。今後は、発掘した文化財を広く町内外に公開して、生涯学習やアイヌ文化を伝える貴重な資源として普及啓発を図りたい。

そこで、埋蔵文化財の展示・収蔵、それらの調

査研究ができる埋蔵文化財センターを検討している。



オニキシベ2遺跡 中世アイヌ墓出土副葬品

一般質問

ここが聞きたい

人材確保

町内福祉施設との定期懇談は

答 年内に開催するよう日程調整している



伊藤富志夫 議員

町長 残念ながら定期懇談には至っていないが、町内の3事業体と年内には懇談会を開催していただくよう日程調整をしている。福祉現場での人材供給のためにも、育成や動機づけなどさまざま

問 平成28年第4回定例会で「町内福祉施設との定期懇談が必要では」と質問し「できれば定期懇談をしていきたい」と回答されたが、開いたのか福祉施設での人材確保の問題は深刻なままであり、資格奨励と人材確保や、若い人の町内福祉施設への優先的選択をしてもらう支援策について、早期に懇談が必要ではないか。また、一般質問の答弁に対する進捗状況のチェックが行政側に求められているのではないか。



まな施策を展開していかなければならない。町とすることができること、するべきこと、これを3事業体と話し合い、重ならないように支援策を考えていきたい。

私の議会での答弁によつて実行していくべきものは、細かな約束についても進捗状況を内部点検していきたい。

老老介護

家族介護支援の積極的取り組みを

答 手探り試行錯誤していききたい

問 ひとり暮らしや老夫婦世帯が多くなっているが、老老介護の現状と対応についてと、小規模多機能型居宅サービス施設の人材不足の対応についての考えは。さらに、在宅介護者への家族支援の積極的取り組みができないか。

また、団塊世代が75歳を超えて後期高齢者になる2025年に向けての、町の中・長期ビジョンはどうなっているか。

人、要介護1・2が103人、要支援84人の計278人で、町の高齢者1691人の16・4%にあたる。その中で、独居世帯は25、老老世帯は28である。

町としては、支援計画に基づき各種支援を実施し、要介護化を積極的に予防していきたい。

介護者の家族支援も、適正な方法について、今後手探り、試行錯誤していききたい。

町長 高齢者のいる1046世帯中732世帯が単身または2人も高齢者の世帯で、介護認定状況は、要介護3以上が91

一般質問

ここが聞きたい

公共交通路線

日高線の存続 厚真町の対応は

答

維持・存続に向け考えたい

問 日高本線沿線7町は、同本線の不通が続く中、JR北海道から存続に向けて厳しい条件が付けられている。協議会では、代替公共交通案が出ており、バスによる全面転換案が最も有力視されている。

行されているが、厚真町の日高本線の存続・廃線等に対する今後の対応についての考えは。

町長 本町の取り組みは、「JR北海道の維持困難線区に関する東胆振首長懇談会」において、日高線（鶺川～苫小牧間）および室蘭線（沼ノ端～岩見沢間）について、東胆振定住自立圏を構成する1市4町での情報共有と意見交換を行っている。

日高線は、苫小牧市とむかわ町間を折り返し運行されているが、厚真町の日高本線の存続・廃線等に対する今後の対応についての考えは。



井上次男 議員



存続が危ぶまれている日高線



大捕孝吉 議員

農業振興

担い手育成と確保対策は

答 行政、関係機関と努力を続ける

問 現在、農家戸数は平成28年が325戸、平成29年では305戸と23戸減少し、担い手も、新規就農を含め年間4～5戸しか増えず、総体人口が減少している。担い手夢基金や新規就農支援事業等の内容や方法を検証する必要があるのではないか。

また、新規就農者は施設型が多く、土地型が少ないことも含め、政策や支援策を作成するうえで関係機関はもとより、担い手や後継者のいない農家の意見を取り入れた政策が必要ではないか。

町長 農家戸数は年平均

13～14戸の減少と認識している。一方、10年間で新規就農を含め44名が就農している。新規就農者が耕種農家を目指すのは難しい。居抜き委譲希望農家とのタイミングを見計らい、制度や受け皿も用意したい。また、農業後継者の就農は非常に順調だと評価している。支援策は、個人の財産にも当たるので3分の1が適正かと思う。今後、行政、関係団体長と知恵を絞り、農業で持続的発展できるよう努力を続けたい。

一般質問

ここが聞きたい

漁業振興

シシャモ資源増大について

答 今後も注目していく



高田芳和 議員

問 シシャモが生育している海域でのマツカワ放流がシシャモ資源に影響を及ぼしていないか。大雨などにより土砂が堆積し河口部が狭くなっており、臨港大橋までの区間も干潮時には中洲がでける状況となっている。そ上する河川環境の整備についてどう考えるか。

また、現在の北海道内水面漁業調整規則では、網口と網の長さが40cm未満のたも網であれば合法的に採取できてしまうので、内水面漁業調整規則改正に向けて働きかけが必要と思うが。

町長 北海道栽培水産試験場に問い合わせたが、マツカワによるシシャモ稚魚の捕食が資源量に影響している可能性は低いとの報告を受けているが、今後も注目していく。河口部の閉塞除去工事は定期的に実行しており、今後その工事を継続していくという回答を得ている。内水面漁業調整規則の

改正は非常にハードルが高い認識だが、漁業者の皆さんと協議し、法体系

について十分研究し、しめるべき時期に北海道と相談させていただく。

高齢者福祉

介護人材の確保について

答

効果のある事業を早期に展開したい

問 町内には、資格を持ちながら就労経験のない方、就労経験があっても

除するような育英資金制度を創出できないか。

者と協議し、効果のある事業を早期に展開していきたい。

さまざまな理由で退職され、現在就労されていない方がいると思う。そういう方が新たに働く、あるいは復帰しようとする

町長 平成12年から平成24年までホームヘルパー2級講習を実施し、履修した方が190名いる。このうち、65歳未満の未就労者は28人おり、そういった方々を介護施設に結びつけていく可能性が高いと思う。

償還免除の特約つきの育英資金の創出は、非常に難しいと思うている。

また、介護福祉士の養成校に入学する生徒に、卒業後、町内の3法人に就職すれば償還義務を免

また、介護福祉士の養成校に入学する生徒に、卒業後、町内の3法人に就職すれば償還義務を免

町単独で実施するか、あるいは福祉法人、あるいは事業者と協同で事業を展開していくか3事業





吉岡茂樹 議員

農業振興

ハードコンテナの増設について

答 しっかりと精査させていただきたい

問 建設から26年経過した馬鈴しょ選果場の設備備品として導入したハードコンテナが、破損・老朽化などで減少している。平成3年当時とは、収穫作業体系も変わり、大型機械での収穫作業が大半を占め、加工用馬鈴しょ・加工用カボチャの一時保管等でハードコンテナの必要性が求められている。

青果物集出荷貯蔵施設での馬鈴しょ氷室貯蔵のためにも、農業者の要望を取り入れ、ハードコンテナの増設の事業展開の考えは。

町長 馬鈴しょ選果場の建設は、JAの事業として道の補助と町の補助で建設されたものであり、付帯設備としてハードコンテナの導入もされた。選果場の使用実績が計画能力を下回り、選果場利用者が選果処理能力に合わせていかなければ幾らコンテナを増設しても収穫作業の調整をしてい

かなければならない。しっかりと調査をした上で協議になるのかと思っている。

ヒグマ対策

野生動物（ヒグマ）に対する対応について

答 講演会等の実施を検討していく

問 近年、本町でもヒグマの目撃情報が数多く寄せられ、7月には民家の近くで親子連れや単独の小熊、2メートル近い雄熊などの目撃があった。

行政として有危険動物（ヒグマ）の情報の確認方法やその後の対策、町民への周知等、一連の対応が不足していると考えますが、今後の対応についての考えは。

町長 ヒグマの基本的な

対応については、道のヒグマ出没時における対応マニュアル、道の出没個体の有害性判断フローに沿って対応している。

今後、住民の皆さんにわかりやすいリーフレット等の配布や、できる限りヒグマと共生するために人間としてどう行動すべきかを含めて、機会をみて専門家に

よる講習会・講演会を実施することを検討する。



一般質問

ここが聞きたい

問 上厚真地区は、公営住宅の整備、民間および公営宅地の分譲に伴う住民増、苫小牧東港、後背地である工業地帯に関連した運送関係車両の通過点ともなっており、大型車両も含め交通量が多くなっている。

一方、地域内道路は旧

答

交通量調査を行い検討する

交通安全

上厚真地区の交通安全対策は



下司義之 議員

来から大きく変わらず、新しい交通環境に十分対応しているとは思えない。今後も交通量増加の可能性もあり、上厚真周辺を含めた道路環境の改善を計画的に行うべきと思うが。

上厚真町通学路安全推進会議を設けて、通学路を対象とした交通安全プログラムの策定を計画している。上厚真地区内の交通量調査を行った上で、区域内交通の対応を検討したいと考えている。

問 町内では多種多様なイベントが開催され、町民のみならず来町者を楽しませ、交流人口の増加にもつながっている。

一方、イベントが多くなることにより、町の関連予算も増大傾向にある。

知名度アップに一定の評価ができる。

一方、町の財政運営における負担感は決して小さくなく、財政健全化に向けて不断の努力を続けている現状では、例外なく財政支援の効果等を検証していく必要がある。

それであっても、主催者の自主性を損なうことのないよう、丁寧な協議を重ねていかなければならないと考えている。

町長 上厚真地区の道路環境は、かみあつまきらりタウンの宅地分譲による歩行者の増加、また、周文埠頭などの苫小牧東港への運送車両の増加、厚幌ダム事業関連事業などによる車両通行の増加が見受けられる。

本町では、本年9月に



危険度が増している穴田米穀店地先の町道
左から本線が合流

地域活性化

イベント事業の支援に対する基本方針は

答 財政支援の効率等を検証する必要がある

町長 町内で開催の各種イベントは、町内外から多くの来場者が訪れ、町の活性化、交流人口の拡大、町の

増加と同様に交流人口の増加に取り組むことは必要とは思いますが、事業が多くなれば個別の事業に十分な予算配分がされない懸念がある。イベント支援に対する町長の基本的な考えは。

問 町内開催の研修会に職員も積極的に参加を。

答 できる限り町民向けのみならず、さまざまな研修会にも参加する環境を整えたい。

問 商工振興事業の制度運営に硬直化がみられるのでは。

答 できるだけ事業者の要望に添えていきたい。

(こんな質問もしました)

定例議会・臨時議会の議決案件（賛否状況）

平成29年10月27日（金）（第5回臨時議会）

議案番号	議 件 名	賛 否
承認第1号	専決処分の承認（平成29年度厚真町一般会計補正予算（第4号））	承認全員
議案第1号	平成29年度厚真町一般会計補正予算（第5号）	賛成全員

平成29年12月12日（火）（第4回定例議会）

議案番号	議 件 名	賛 否
同意第1号	厚真町固定資産評価審査委員会委員の選任	同意全員
議案第1号	厚真町加賀谷厚三・明美教育振興基金条例の制定	賛成全員
議案第2号	厚真町営住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正	賛成全員
議案第3号	厚真町子育て支援住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正	賛成全員
議案第4号	指定管理者の指定	賛成全員
議案第5号	指定管理者の指定	賛成全員
議案第6号	指定管理者の指定	賛成全員
議案第7号	指定管理者の指定	賛成全員
議案第8号	指定管理者の指定	賛成全員
議案第13号	厚真町議会議員期末手当支給条例の一部改正	賛成全員
議案第14号	厚真町特別職の給与に関する条例の一部改正	賛成全員
議案第15号	厚真町一般職の給与に関する条例の一部改正	賛成全員

平成29年12月13日（水）（第4回定例議会）

議案番号	議 件 名	賛 否
議案第9号	平成29年度厚真町一般会計補正予算（第6号）	賛成全員
議案第10号	平成29年度厚真町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	賛成全員
議案第11号	平成29年度厚真町介護保険事業特別会計補正予算（介護サービス事業勘定補正予算（第2号））	賛成全員
議案第12号	平成29年度厚真町公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）	賛成全員
議案第16号	平成29年度厚真町一般会計補正予算（第7号）	賛成全員
議案第17号	平成29年度厚真町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）	賛成全員
議案第18号	平成29年度厚真町介護保険事業特別会計補正予算（保険事業勘定補正予算（第3号））	賛成全員
議案第19号	平成29年度厚真町簡易水道事業特別会計補正予算（第4号）	賛成全員
議案第20号	平成29年度厚真町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）	賛成全員
報告第1号	専決処分の報告（工事請負契約の変更）	—
報告第2号	専決処分の報告（工事請負契約の変更）	—
認定第1号	平成28年度厚真町一般会計歳入歳出決算の認定	賛成全員
認定第2号	平成28年度厚真町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定	賛成全員
認定第3号	平成28年度厚真町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定	賛成全員
認定第4号	平成28年度厚真町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定	賛成全員
認定第5号	平成28年度厚真町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定	賛成全員
認定第6号	平成28年度厚真町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定	賛成全員
意見書案第1号	厚真川河川改修事業促進に関する意見書	賛成全員

管内町議会議員研修会レポート

森田正樹 議員

「大雨に対する防災・減災について」

【講師】 室蘭地方気象台予報官 津田 幸一 氏



防災・減災のポイントを解説する津田予報官



講演会の様子

11月8日、壮瞥町で行われた「管内町議会議員研修会」に参加しました。講師は室蘭地方気象台予報官の津田幸一氏で、「大雨に対する防災・減災について」と題し、大雨に対し重視している次の3項目について講演されました。

①「相手を知る」

どんなとき大雨になるのか

・前線、積乱雲はどんな悪さをするのか。

天気図を知ること、

良い領域と悪い領域がわかり、前線+台風が大雨につながる。

平成28年、北海道に5つの台風が度重なり接近

・上陸したことによって

道内各地で甚大な被害が発生したのは、この「前線+台風」の大雨によるもの。

②「自分を知る」

住んでいる地域は安全か。水がつくのか、崖が崩れるのか。

土砂災害の多くは雨によつて発生する。定期的

に、ハザードマップで避難場所や避難ルートを家族で確認すること。

③「どう向き合うか」

生き抜くためにどう行動するか

・正しい避難のしかたは

・最後の最後に大事なものは。

天気予報、警報・注意報等の気象情報を入力し、

情報の意味を理解すること。また、河川のはらら

ん、道路の冠水・床上浸水、崖崩れなど、何が起きるかイメージして行動

する。

命を守るために率先して行動し、隣近所で助け

合えば、地域全体の命を守る。

講演を聞き、防災ハザードマップを定期的に

確認して、自分と地域の

防災力を高めることが大事ではないかと感じまし

議会を傍聴しませんか

定例会は、毎年3月・6月・9月・12月に行われます。臨時会は、審議する案件が緊急のときなど、必要に応じて行われます。どなたでも傍聴できますので、お気軽にお越しください。

また、定例会・臨時会とも、議会ホームページで議会の様子を生中継していますので、インターネットでもご覧いただけます。

■厚真町議会ホームページ

<http://www.town.atsuma.lg.jp/gikai/>

■問い合わせ先

厚真町議会事務局 (☎ 27 - 2485)



議会及び議員の活動報告

日	曜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
日	曜	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
														議会広報特別委員会 福岡県糸田町議会行政視察来庁					総務文教常任委員会 議会広報特別委員会 厚真ダム落水感謝祭				厚真町商工会青年部創立50周年記念式典 並びに記念祝賀会				現金出納例月検査 産業建設常任委員会 第5回臨時会					

日	曜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
日	曜	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
		「北海道いぶりフェア」オープニングレセプション	農林水産省農村振興局への要望活動	厚真町文化祭開催式 厚真町表彰式 木村幸一氏叙勲受章祝い 石山誠一郎氏叙勲受章祝い					管内町議会議員研修会（～9日） 議会議員行政視察（洞爺湖町、千歳市）				監査ゼミナール セーフティコール	監査委員・補助職員研修会	決算審査特別委員会（～17日）							地方自治法施行70周年記念式典及び記念シンポジウム	町村議会議長会全国大会（～22日）	厚真神社新嘗祭	現金出納例月検査						元議会議員親睦会秋季懇談会

日	曜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
日	曜	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
		厚真町議会議員親睦大会			議会運営委員会 新米試食会	胆振管内町村議会議長会第2回定期総会（～7日）	交通安全・防犯町民集会				議会運営委員会 第4回定例会（～13日） 全員協議会 議員協議会 議会広報特別委員会						木村幸一氏叙勲受章祝賀会						町並びに議会、社協役員による福祉推進懇談会		現金出納例月検査	安平厚真行政事務組合議会定例会 胆振東部日高西部衛生組合議会定例会 胆振東部消防組合議会定例会	歳末警戒激励訪問					

議員行政視察レポート

伊藤富志夫 議員

災害時に災害対策拠点として使用 千歳市防災学習交流施設『そなえーる』を視察

11月9日、議会議員全員で、千歳市防災学習交流施設『そなえーる』の行政視察研修を行った。

はじめに、里村副施設長から施設の概要と千歳市の防災状況について説明を受けた。施設では、市民（自主防災組織）やボランティア、防災関係機関が単独または相互に連携して防災学習や防災訓練を実施し防災力を高めている。千歳市の自主防災組織率は、平成15年は38%だったが、現在は73%まで到達しており、「早く全国レベルの80%にしたい」と話されていた。



地震体験コーナー
災害を体験し・学ぶ
施設では、いろいろな
体験ができる。まず、全

議員が『地震体験』を行った。東日本大震災や熊本地震の揺れを実際に体験したが、揺れは想像以上に激しく、支え棒なしではとても立ってられない状態であった。



予防実験・煙避難体験
次の『予防実験コーナー』では、実験装置を利用したコンセントからの発火現象を目の当たりにし、何気ない場所から発火する恐ろしさを感じた。

体験の最後は『煙避難体験』であった。煙を充満させた建物に数人一組で入り、真っ暗な中で鼻と口を押さえ、低い姿勢で出口を探しながら避難したが、真っ暗な中で慌てて行動することでパニック状態になることがよくわかった。

文化活動団体紹介

厚真朋吟会（詩吟）

紹介者：会長 中谷 幸保さん

厚真朋吟会は、現在5名の会員で活動しています。

詩吟は、漢詩・俳句・和歌など詩歌に込められた作者の喜びや哀しみ、感動した心を吟詠しながら感じ、声に出して表現するものです。お腹の底から声を出すため、ストレス解消や有酸素運動効果が得られます。テキストも簡素で、どの世代の方でも簡単に始められます。

主な活動としては、週1回の吟詠会のほか、町内外での吟詠会、年に数回の研修会参加や1泊での吟行会を行っています。

会員は随時募集していますので、お気軽にお問い合わせください。

- ◆昭和41年創立
- ◆会長 中谷 幸保さん
- ◆活動日時
毎週水曜日 午後6時30分～午後8時
総合福祉センター
- ◆連絡先 中谷さん（☎27-2830）

